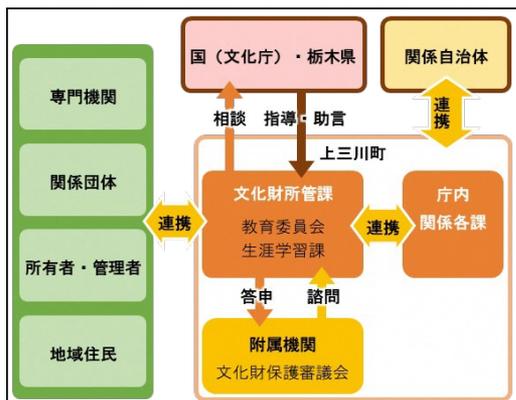


【計画期間】 令和7～17年度（11年間）  
 【面積】 54.39km<sup>2</sup>  
 【人口】 約3.1万人

## 推進体制



## 指定等文化財件数一覧

類型・種別	国指定/ 選定/選択	県指定/ 選定/選択	町指定	国登録	合計	
①有形文化財	建造物	0	0	5	2	7
	絵画	0	0	1	0	1
	彫刻	0	2	6	0	8
	工芸品	0	0	2	0	2
	書跡・典籍	0	0	0	0	0
	古文書	0	0	2	0	2
	考古資料	1	0	2	0	3
	歴史資料	0	0	2	0	2
②無形文化財	0	0	0	0	0	
③民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	2	0	2
	無形の民俗文化財	0	0	5	0	5
④記念物	遺跡	1	0	14	0	15
	名勝地	0	0	0	0	0
	動物、植物、地質鉱物	0	1	6	0	7
⑤文化的景観	0	-	-	-	0	
⑥伝統的建造物群	0	0	-	-	0	
合計	2	3	47	2	54	

指定等文化財は、54件

未指定文化財は、1,897件把握

## 歴史文化の特徴

### ① 風土に根付いた農業と生活文化

豊かな水系を活かして稲作が始まり、農業生産はこの土地に暮らす人々の努力によって発展してきた。風土に恵まれた干瓢生産、四季を彩る祭礼行事や生活文化は、現在のくらしに受け継がれている。



西木代の天棚（町指定有形民俗文化財）

ゆがおの実（ふくべ）

### ② 豊かな水資源を活かし、台地上に築かれた人々の生活

台地上に多く築かれた遺跡は、旧石器時代までさかのぼる人々の生活を示す。豊かな水資源によって稲作が始まり、河川交通が発展し、広大な河川敷空間は、現代の人々の憩いの場となっている。

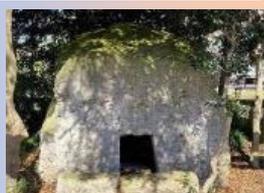


白鷺

上神主・茂原官衙遺跡（国指定史跡）

### ③ 東山道によって結ばれた古代河内郡の中心地

古墳時代に形成された畿内勢力につながる豪族首長のネットワークは、古代の東山道によって結ばれ、町域とその周辺は古代河内郡の中心地として発展した。



愛宕塚古墳石室（町指定史跡）

### ④ 鎌倉街道がつなぐ中世宇都宮氏の守りの要

鎌倉街道の拠点に築かれた上三川城や多功城は、中世宇都宮城の南方の守りの要となって、その繁栄を支えた。両城の付近には、現在も歴代城主ゆかりの寺院や地名・町割が遺る。



上三川城址公園

### ⑤ 近世の日光道中から近・現代の鉄道と国道の往来がもたらす町の発展

近世の日光道中の整備により多功は宿駅として発展し、続く明治時代以降の鉄道や国道整備の道筋となり、上三川町は物流の拠点として発展した。



生沼家住宅（国登録有形文化財）

※【重】：重点的に行う事業

文化財の保存・活用に関する課題・個別方針・事業

	【課題】	【個別方針】	【事業の例】
文化財を「まもり」	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の現状の把握、情報の整理ができていない</li> <li>文化財の価値付け、調査が不十分</li> <li>文化財の保存と維持管理が不十分</li> <li>文化財所有者・保存団体への支援が不十分</li> <li>文化財の防災・防犯が未整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の把握と情報整理の推進</li> <li>文化財の価値を明らかにする調査の実施</li> <li>文化財の適切な保存と維持管理の実施</li> <li>文化財所有者・保存団体への支援強化</li> <li>文化財の防災・防犯体制と必要な対応の検討、整備の実施</li> </ul>	<p>①-8【重】保存活用計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上神主・茂原官衙遺跡の保存活用計画を作成する。</li> <li>宇都宮市と連携して委員会を設置・運営し、今後の保存・活用の在り方について学識経験者から指導・助言を受ける。</li> <li>■主体：上三川町,専門機関,関係団体 ■期間：R8～11</li> </ul> <p>①-15 文化財の防災・防犯計画の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」を参考にし、防火対策を検討する。町のハザードマップと文化財の位置情報、個別の文化財の防災・防犯状況を元に、防災・防犯設備の設置など、必要な対応を検討し、事業の実施計画を検討する。等</li> <li>■主体：上三川町,専門機関,所有者・管理者 ■期間：R7～12</li> </ul>
文化財の新たな可能性を「みせる」	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の活用・整備事業の継続が必要</li> <li>文化財に触れる、歴史文化を知る機会が少ない</li> <li>文化財情報の発信が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の価値や魅力を伝えるための活用・整備の推進</li> <li>文化財の魅力的な公開・展示、歴史文化を知る機会の創出</li> <li>多様な媒体による文化財情報や魅力の発信</li> </ul>	<p>②-7【重】文化財に関する情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上三川町ホームページや「広報かみのかわ」に文化財情報を掲載する。</li> <li>各種冊子・パンフレット等の作成・刊行などにより情報発信を行う。</li> <li>町の文化財を巡る観光ガイドマップの作成・上三川町ホームページでの公開を行う。</li> <li>SNSを活用した文化財PRを行う。</li> <li>■主体：上三川町,関係団体,地域住民 ■期間：R7～17</li> </ul> <p>②-8【重】上神主・茂原官衙遺跡の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宇都宮市と連携して、遺跡の魅力を発信する。</li> <li>■主体：上三川町,関係団体 ■期間：R7～17</li> </ul>
文化財でひととまちを「つなぐ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の一体的な保存・活用が行われていない</li> <li>文化財担当部署の体制が不十分</li> <li>文化財の保存・活用を担う主体間の連携不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の一体的な保存・活用の推進</li> <li>文化財担当部署の体制強化</li> <li>多様な主体との連携体制の構築</li> </ul>	<p>③-6【重】関係自治体との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「下野市・上三川町・壬生町文化財連携事務研究会」による地域間での連携を図り、エリアとしての価値を高めるとともに、貴重な文化財の保存・活用を行いながら全国に向けてPRを行う。</li> <li>下野市・上三川町・壬生町の行政間のみならず、地域住民の文化財に関わる活動も連携できる体制づくりを目指す。文化財に関わる活動を行っている団体などの意見を聞きながら検討する。</li> <li>■主体：上三川町,関係団体,地域住民 ■期間：R7～17</li> </ul> <p>③-7【重】文化財の保存・活用ネットワークの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の関係団体リストを作り、協働体制を検討する。等</li> <li>■主体：上三川町,関係団体 ■期間：R7～17</li> </ul>



上神主・茂原官衙遺跡保存整備委員会の様子



宇都宮市との連携による情報発信



下野市・上三川町・壬生町連携歴史ウォークイベント